

# 今治市こども計画「若者意見の聴取」

## I 実施概要

### ■日時・会場

令和6年12月26日（木）13時30分～15時00分  
今治市役所 10階 101会議室

### ■参加者について

- ・今治市出身、市外・市内在住の高校生、大学生
- ・参加人数 11名

### ■事業主催者と参加者

今治市役所 こども未来部 こども未来政策局 ネウボラ政策課  
委託先事業者 リージョナルデザイン株式会社

## 2 ワークショップの進行について

### (1) タイムテーブル

|                                                                                          |                |
|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 開会・挨拶                                                                                    | 5分             |
| 事務局紹介                                                                                    |                |
| 本日の座談会の趣旨説明<br>※市から計画策定の経緯説明<br>その次にRDから進行説明とルール説明                                       | 10分程度          |
| ～こども・若者が地域で自分らしく生きていけるように～<br>今治市こども計画を知ろう！                                              |                |
| セッション<br>テーマ1 若者が活躍できる社会について語ろう<br>テーマ2 出会い・交流・結婚・子育ての取組を語ろう<br>テーマ3 若者世代のライフデザインについて語ろう | 75分<br>(25分×3) |
| 発表 3テーブル×3分                                                                              | 9分             |
| 閉会挨拶                                                                                     | 2分             |
| 閉会                                                                                       |                |

## (2) ワークショップのテーマ

「今治市こども計画素案」の説明を聞いた後に、3つの島ごとに以下のテーマについて話し合います。

### テーマ①「若者が活躍できる社会について語ろう」

基本目標1に示す自己肯定感・自己効力感が得られる社会を「若者が活躍できる社会」と翻訳する。若者が活躍できる、満足できる社会像をイメージし、話し合う。個人レベルの意見を集約し、若者にとって希望を持てる社会の構成要素を探る。

### テーマ②「出会い・交流・結婚・子育ての取組を語ろう」

家族を作ろうサポート事業・出会い交流応援事業・結婚新生活支援事業を中心に基本目標4への意見を求める。施策を知り、出会い・交流・結婚・子育てをイメージしてもらう。

### テーマ③「若者世代のライフデザインについて語ろう」

ライフデザインを考える。人生に起こるであろうキーワードを与え、将来のライフデザインを話し合う。

キーワード：進学、就職、友人、家族、結婚、出産、社会、こども（数）、趣味、人生で達成したいこと、どこで暮らすか、貯蓄、マイホームなど

## (3) 進行内容

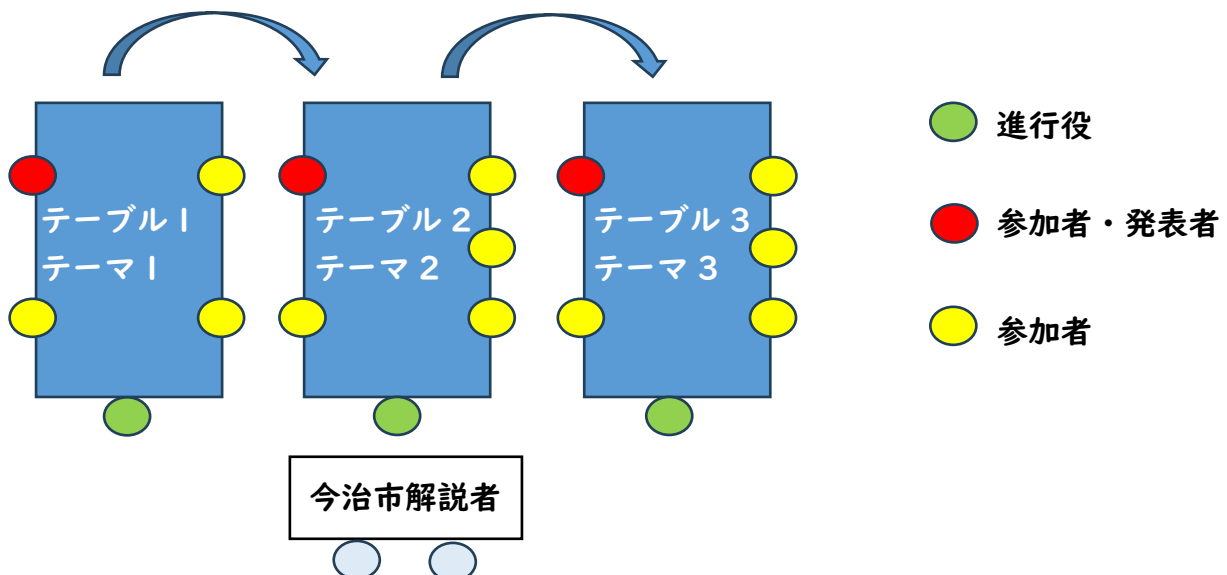
### ①ワールドカフェスタイルでの進行

会場には、テーマごとにテーブルを用意しました。

参加者は、最初は好きな場所に座っていただきます。1つのテーマを話し合った後には、各テーブルに1人残して移動してもらいます。各テーブルで残った方は、他のテーブルから新しく来た方のために、これまで話し合っていた内容を説明していただき、再び進行役を中心にそのテーマについて話し合いを行いました。

また、今治市職員もこども計画の解説者として、参加者からの質疑応答に対応しました。

### ■ワールドカフェスタイルのイメージ



## ②セッション1～3

参加者は、テーマごとに感想や意見、要望などを付箋紙に記載し、模造紙に貼っていきます。次に、付箋に書いた内容を意見交換し、意見をグルーピングしていきます。



## ③意見の全体共有（各テーブルでまとめ発表）

テーブル・テーマごとにポスターセッション形式で意見発表をし、多様な意見の共有を図ります。



### 3 結果のまとめ

#### (1) 出された意見（模造紙に書かれた言葉の文字起こし）

##### ■テーマ1 「若者が活躍できる社会」

※こういった場所があれば若者が地域でいきいきと活躍できると思うか

##### 「学校に行けなくなった子どもの居場所」、「相談できる人がいる」

- ・小学校や中学校の時には学校に通えなくても、高校からは通信制等もあって学校に通える人もいることから、学校に行けなくなった子どもの居場所づくりを進めることが大切であるとともに、その居場所に相談できる人がいることも大切である。

##### 「部活動 コミュニティ」

- ・学校間同士の交流が少ないと感じている。発言者自身が所属している部活では、大会が近づくとも他校と合同練習をしており、交友関係の広がりや技術向上にも繋がっていると感じている。そのように、部活動によってできるものとできないものがあるが、学校間同士で交流し、コミュニティを形成していくような取組も大切である。

##### 「子どもたちだけの居場所」

- ・ネウボラ拠点施設整備に関連して、子どもたちだけが使える居場所というのもあっていいのではないかと考えている。その中で、例えば、勉強したい人だけが使えるスペース、趣味等の集まりで活動ができるスペースを、フロアごとで区切って利用できるようにする方法もある。

##### 「働くところ」

- ・高校卒業後に県外の大学に行くことを考えているが、その後就職するとなった際に、今治市に帰ってきて働きたいと思える場所がない。

##### 「避難訓練」、「防災」

- ・南海トラフ地震の発生が予想される中、地域で避難訓練を行い、日頃から防災意識を高める必要がある。また、発言者自身は防災士試験を受験しており、資格取得後は防災士として地域貢献することも考えている。

##### 「グッズをつくる場所」、「ヲタ活をできる場所」、「ライブ会場」

- ・アイドルなどのヲタ活（推し活）をする上で、仲間同士が集まってグッズを作ったり、交流したりできる場所が少なく、ライブ会場も松山の方に行く必要があるため、活動できる場が地域に必要な。

##### 「エンタメ会場」

- ・さいたまスーパーアリーナのような複合施設があれば、様々なイベントが開催することができるようになり、地域の賑わいにつながる。

#### 「言語・国際交流」、「ダンスホール」

- ・語学学習を通じて、国際交流ができる機会の必要性を感じている。外国の方の中には、ダンスホールを作りたいと考えている方もおり、あまり日本人にはない発想と感じて印象的だった。そのように、国際交流で様々な人と出会う中で、新たな視点や発見が生まれるのではないかな。

#### 「レイクランド→ホストファミリー」、「国際運動会などのイベント」

- ・市の担当者に対する国際交流の取組への質問から、姉妹都市交流として、アメリカのレイクランド市から訪問した学生たちをホストファミリーとして受け入れる取組を知った。国際交流運動会のようなイベントを開催することで、国際交流が深まるのではないかな。

#### 「思い出づくりができる場所」

- ・地元高校生が集まって思い出を作れるような場所が今治市内にないと感じている。そのため、既存の観光スポットなどを活用し、地元の方も思い出を作れるような場所があってもいいのではないかな。

#### 「お年寄りとこどもの交流」

- ・これからの社会において、お年寄りとこどもの交流が大切だ。

#### 「勉強するスペース」

- ・は一ばりーや図書館以外に無償で勉強できるスペースがないと感じている。また、それらの施設も利用できる人数に限りがあるため、今後はそのような無償で勉強ができるスペースを増やすことが大切である。

#### 「スタートアップカフェ」、「起業したい」

- ・将来的には今治市内で起業することを考えている。その上で、起業支援としてスタートアップカフェのようなものがあれば、自分のような起業を志している人が活動しやすくなる。

#### 「若い年代に向けたサッカーコート」

- ・芝のグラウンドでプレーできる環境が望ましいと考えている。今治市内にも芝のグラウンドがあるが、若い年代（高校生以下）には利用料の関係等で全面を使うようなことは難しい。そのため、若い年代も芝のグラウンドで気軽にプレーできるようなサッカーコートが必要だ。

#### 「今治の自然を生かしたりラックスできる場所づくり」

- ・今治市内の自然環境に魅力を感じており、それを生かしてリラックスできる場所づくりを進めることができればよいのではないかな。

#### 「こどもと交流したい」

- ・こどもと高校生や大学生が交流できる場があればよい。

#### 「スポーツができる場所」

- ・今治市内でスポーツができる場所が少ないと感じており、スポーツができる場所を増やすことが望ましい。

#### 「ジャンルごとのコミュニティを作る」

- ・今治市に新しくできたコワーキングスペースなどを活用しながら、様々なジャンルのコミュニティが形成されていくことが望ましい。

## ■テーマ2 「出会い・交流・結婚・子育ての取組を語ろう」

### ○出会い、交流について

※若い世代同志の出会いや交流の現状はどうか。市や県の取組みを知ってどう思うか。

- ・「出会いが多い場がわからない」  
→なんとなく今治に出会いの場が少ないという印象はあるが、それがどのような場であるか想像しづらい。
- ・「コミュニティが狭い」  
→人口が多すぎず少なすぎずで、出会いの場も少ないし、近所意識もなく、属するコミュニティが狭くなりがち。
- ・「出会いの場があっても、それを知る機会が少ない」  
→今日イベントのチラシを見て初めて出会いの場が用意されていることを知った。こういうイベントがあると知っていれば行く人もいると思う。
- ・「友達も作れる場所を作る」  
→急に人生のパートナーをとというのはイメージしづらいため、まずは友達を増やせるような場所が欲しい。
- ・「共通の趣味で盛り上げられる場所」  
→友達になりやすいのは、スポーツなど共通の趣味を持つ人であるため、共通の趣味を持つ人が集まりやすいイベントがあればよい。
- ・「他の業種の人と交流できるイベント」  
→会社の忘年会などの交流の機会があっても、いつも同じ人としか顔を合わせることがないため、例えば他の業種の人と交流ができるイベントがあれば人脈が広がり、出会いが増えると思う。イベントの開催にあたっては季節も重要であると思う。

## ○結婚、子育てについて

※結婚や子育てについてどんなイメージを持っているか。子育て支援策に必要なものは。

- ・「結婚に対してのイメージが悪い」  
→自分が結婚するかどうかは置いておき、結婚自体のイメージは悪い。お金がかかること、夫婦間の良好な関係を築くことが難しそう。子育てはさらに難しいと思う。
- ・「子どもが増えれば増えるほどお金が必要」
- ・「お金がたりない」  
→親戚や兄弟の話聞く限り、お金がかかるというのは知っているが、具体的にどれくらい必要か想像ができないため、不安を感じると思う。
- ・「自分の時間が必要」→「労働環境の整備、働き方改革、フレックスタイム制の導入」  
→結婚するため、また結婚後にプライベートの時間をとることが必要で、そのためには仕事を早く終えられる日が週に何日かは必要だと思う。
- ・「結婚式場の情報を知る」→「意識が芽生える」  
→結婚に対する華やかなイメージとして、結婚式を連想する。特に女性は結婚式に憧れを持つ人も多いため、このあたりの情報がもっと入れば結婚を考えるきっかけの一つになると思う。
- ・「子育て、結婚についての授業を高校生が勉強して行う」  
→高校生が結婚・子育てに対する知識を深め、例えば中学生に対して授業を行うことで、高校生は結婚・子育てをもっと身近に考えられるようになり、中学生は自分たちより少し年上の先輩でも結婚・子育てについて真剣に考えているのだと気づき、自分事として考えるきっかけになると思う。

## ■テーマ3 「若者世代のライフデザインについて語ろう」

各自それぞれのライフデザインを描いてみて発表するワークを実施した

### (2) 出された意見の分析

## ■「若者が活躍できる社会」のまとめ

### ●居場所とコミュニティと若者の活躍

- ・学校に行けなくなったこどもの居場所づくりを進めることとその居場所に相談できる人がいることが大切である。
- ・こどもたちだけが使える居場所、例えば、勉強したい人だけが使えるスペース、趣味等の集まりで活動ができるスペース。
- ・は一ぱりーや図書館以外に無償で勉強できるスペースがない。無償で勉強ができるスペースを増やすこと。

上記の意見は、安心して過ごせ、多様な目的（ニーズ）をかなえる居場所を多く持つことを指摘しています。他のテーマでもコミュニティづくりを目指す行動を考えている若者やこども食堂など高校生世代から見て低年齢世代への支援活動を考えている若者がいます。これらの考えは、居場所となる拠点があって行動の目的に沿ったコミュニティを形成する、あるいは既存のコミュニティに参加することを求めているといえます。若者の希望を持てるまちのイメージするところは、それぞれ自分視点での居場所があることが挙げられています。他のテーブルで、その居場所を自分がコミュニティを形成して作り上げる意見もありました。この行動は自己効力を発揮する場となり、高校生・大学生世代のウェルビーイング意識の醸成が図られるものといえます。

「令和5年度こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書（こども家庭庁）」では、「地域のつながりの希薄化、少子化によるこども・若者同士の育ち合い・学び合いの機会の減少等により、「こども・若者が地域コミュニティの中で育つ」ことが困難になっている。」と指摘しています。今治市においても、若者の自己肯定感を育むことや自己実現により自己効力を感じる経験を育む地域の居場所づくりを課題ととらえ、勉強や趣味の活動ができる居場所などを求める意見を参考に居場所づくりの検討が求められる結果となっています。

居場所の検討に当たっては、居場所とは場所、人、時間の3つの要素があって、若者視点での「居たい・過ごしたい・行きたい・やってみたい」を含めて居場所といえます。上記3点の意見の他に今治の自然を生かしたりラックスできる場所づくり、コワーキングスペースなどを活用しながら、様々なジャンルのコミュニティが形成される、こどもとの交流などの意見が出されており、居場所づくりの検討は、若者が居場所と感ずるかどうかは若者が決めることであり、若者の主体性を尊重した居場所のあり方を検討することで、そこで行動する若者の活躍がみえてくるといえます。

## ■「出会い・交流・結婚・子育て」のまとめ

### ●出会い、交流について

- ・結婚、子育てを考えるにあたって、そこで出会った相手が将来的なパートナーになるとは限らなくとも、出会いの場は必要であるという共通認識がありました。
- ・社会人になってからの出会いは、仕事上もしくはプライベートの趣味の中にあると捉えており、出会いの場となるスポーツイベントの開催や、他業種との交流イベントがあればよいという意見がありました。

高校生世代の出会い意識は、今治の中では出会いが少ない、出会いの場を知らないとの意見出されていました。高校生の時点で、社会人になった自分を想像して、社会人になってからの出会いは、仕事上もしくはプライベートの趣味の中にあると捉えていました。

高校生世代の出会いとは、共通の趣味や友達づくりのイメージで語られていることから、「いわゆる付き合わなくても学校や趣味の活動で出会える気楽な関係」を想起します。

今治市の自然環境、スポーツ施設、文化資源など趣味の体験型の出会い交流の場をつくることや、既存の趣味の集まりの場を利用した出会い交流の場の仕掛けなどが有効な取組が考えられます。

### ●結婚、子育てについて

- ・結婚、子育てに対しての率直なイメージは悪いという意見が多く出されていました。理由として、SNS で結婚や子育てに対する不満や愚痴など負の側面を目にすることが多いという点が挙げられています。発信力の観点からみると、行政よりもインフルエンサーのほうが強く、意識がそちらに引っ張られるとのことでした。
- ・結婚・子育てに対するイメージの向上には、結婚・子育てが楽しいと思える情報や、結婚・子育てに対する経済的支援に関する情報の発信が必要で、ただ発信するだけでなく、学生や若者をターゲットにした発信方法の工夫が求められています。高校生が中学生に結婚や子育てについて授業することで、高校生が結婚や子育てを考えるならば中学生でも考えるようになるとの意見がありました。

他のテーブルで、高校生と大学生から、「一人では寂しいから結婚を考え、自分の親を見て結婚の理想像としている」意見が出されています。ともに男性の意見ですが、現在の父母との信頼感、両親の仲の良さについての影響を受けていることがわかりました。女性の意見では、進学で県外に出て、将来の子育ては今治に帰る意見がありましたが、母親が身近にいることの安心感があるからとその理由が述べられています。出産子育てにおいて、自分と親との関係性が出産子育てを考える上で重要な要素であるといえます。逆に言えば、親との関係で、不信感や親不在の環境におかれると結婚、出産子育ての意識は低くなると思われます。

結婚、出産子育てはこどもから親になるまでの過程で育まれる親子の信頼感が次の世代にも好影響を与えるといえます。

## ■「若者世代のライフデザインについて語ろう」のまとめ

### ●高校生・大学生から社会人へ

今回の参加者からみえた大学への進学と社会人へのライフプランは、大学で学ぶ内容を決めて大学進学を考え、県内の大学、県外の大学への進学を選択しています。仕事の種別も選んで大学進学を考えていることがわかりました。

キャリア形成を考えて進路選択を考えていることは、現実を見ての行動を選択していることがわかります。

なかでも、高校1年生～2年生の段階で、地域活動、起業、地域でコミュニティを形成する行動、資格の取得、こども支援といった行動を実践していることは、地域への貢献意識や本人のキャリアプランの具体性がみられる特徴がありました。

### ●社会人以降

今回の参加者は、Uターン意識がありました。都会に出て、40代で今治に戻り出産子育てをする希望、家族や友人がいる今治に戻り安心して暮らす希望、今治に戻り数学教員や体育教員、保育士になって地域貢献したい希望など生まれ育った今治に戻りたいと考えている若者がいることがわかりました。

結婚については、親を見て結婚がいいものと認識している若者が、結婚への意欲を持っていることがわかりました。

高校生・大学生のライフプランからみえたことは、郷土心（シビックプライド的な）の涵養が高校生の時代に醸成されていること、Uターンして仕事や結婚出産を希望していることが特徴といえます。地元愛的な意識の涵養には、高校時代の地域とのかかわりの体験が重要となります。県外の大学卒業後、あるいは県外でいったん就職してのUターン人材をつくるには、仕事に就くことができる、自分で希望する働き方で起業できることは重要です。学校教育外の実践として、経済団体と連携し、起業支援やキャリア形成に関する情報の提供や居場所を設置しての交流機会の創出が必要といえます。

また、進学に奨学金を利用する意見が出ており、将来今治市にUターンした人を対象に奨学金返済への経済的支援は、既存制度の内容検討も含め今後さらに充実させる必要があります。家族や友人がいる環境で、安心して暮らしたいという希望を持つ若者のニーズを具体化し、居場所の機能をネウボラ拠点施設に備え、今後もニーズや志向を聞き取る仕組みづくりを継続することで、人口定常化へつながると考えられます。